

主 題：あの人のようになりたい

聖書箇所：マタイの福音書 5章13－16節

マタイ5：13－16

- ：13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。
- ：14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。
- ：15 また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。
- ：16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

皆さんがよくご存じの箇所です。あなたは地の塩である、あなたは世界の光であると、このように主はご自分の弟子たちにお話になりました。ここで何を言わんとしているのか？難しくありません。皆さんもここを読むなら、このメッセージがいったいどういうものであるかに気付かれるでしょう。主がここで弟子たちに教えられたこと、それは、クリスチャンひとり一人にはこの世に対する責任があるということです。あなたにはこの世に対する責任があると…。では、どのような責任か？世の人に伝えることがあるのです。彼らに知らしめなければならないことがあるのです。私たちに与えられている責任とは、この世に対して影響を与えることです。クリスチャンをいろいろな形で定義することができます。その中の一つですが、多分、このような定義がふさわしいと思います。「クリスチャンとはこの世に影響を与える者たち、この世の人々に影響を及ぼす者たちである。」と。

そのことを主はここで話されているのですが、見ていただきたいのは、13節の初めにも、14節の初めにも、そして、16節にも「あなたがた」と記されていることです。原語を見ると、すべてこれらは強調していることばです。ですから、イエスはここで「あなたがた」と言って、そこにいる弟子たち個人個人だけでなく、引いては、クリスチャンたちが集まっている教会、それに対するメッセージを語られたと言えます。もちろん、私たちひとり一人はこのメッセージをしっかりと受け留めなければなりません。しかし、それだけではありません。「あなたがたが地の塩、世界の光だ」と言われました。私たちはこの群れとしてその責任を負っているのです。個人としてだけでなく、群れとしてもこの世界に影響を及ぼしている、私たちはその責任を負っていることを主は教えておられるのです。「塩」について「光」について、イエスはこのたとえをもって大切な責任があるということを教えるのですが、それを見ていきましょう。

A. あなたは塩である 13節

13節では「地の塩」について教えます。ということは、クリスチャンである私たちは務めをもってこの世に置かれているということです。ですから、私たちはどのような務めを神から頂いているのか、そのことをしっかり覚えなければいけません。この務めを頂いた私たちは、この地上にある限りこの務めを果たし続けていこうとするのです。天に上がるその日まで、私たちはこの務めを果たしていくという大きな責任を頂いています。

1. 塩の用途

まず、塩について考えてみましょう。塩はどのように用いられるのか？

1) 味付け

塩は全体の味を引き締めたり、食材の甘味うま味を引き出したり、また、保存すると言います。人々は今そのように塩を用いていますが、驚くべきことは、約2千年前も同じようだったということです。塩は非常に貴重でした。非常に重宝されていました。

見て来たように、塩は味付けをするものです。私たちも食べてみて味が薄いと塩を欲します。自分の好みの味に少しは変えることができます。イエスはなぜこのようなたとえをもって私たちの責任を話されたのでしょうか？少なくとも、味を付けるという用途をもっている塩ですが、この塩をもってイエスは私たちに何を教えようとしたのか？塩がものに味をつけるように、私たちも味気のない生活を送っている周りの多くの人たちに味を付ける責任があるということです。皆さん、どうですか？皆さんの周りの人たちは、与えられている人生を楽しんで喜んで感謝して「人生はすばらしい！」と心から言いながら生きているのでしょうか？

ある統計があります。これはリクルートの研究員が研究した「生活満足度」で、私たちもいろいろな形でマスコミを通してそのことを知らされますが、そこにはこのようにあります。内閣府によると、満足していると回答した人の割合は、1978年には10.9%だったのが、低下傾向にあって、2005年にはわずか3.6%に下がってしまった。そして、「満足している」、「まあ満足している」と回答した人の割合を併せても、35.8%と4割弱に留まっています。このような統計を聞かなくても、不満を抱えている人たちはいっぱいです。もう仕方がない、あきらめよう、どんなに考えても改善しないのだから、現状に満足しようと、そのようにあきらめている人たちはたくさんいます。

でも、確かにもったいないです。神が与えてくださったこの地上での生活を本当に感謝をもって喜びをもって、「生きるってすばらしい！」とみな生きることができるのに、多くの人がそのような生きていないのです。だから、彼らに味を付けるのです。虚しい生活を送っている多くの皆さんに、それとは違う生き方がある、それとは違う人生があるということを私たちは伝えるのです。「満足できる人生がある」ことを伝えるだけでなく、示すことが大切です。そのためには、私たちクリスチャンは満足していなければなりません。皆さんはⅡコリント9：8のみことばをご存じだと思います。パウロはこう言っています。「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」、「あなたがた」とはクリスチャンのことであり、そこにあなたが含まれていることは皆さんよくご存じです。あなたが主によって救われたということは、神がこの約束をあなたに与えてくださったのです。それは「あなたは神の満足をもって生きることができる人へと生まれ変わった」ということです。それが救われた人に与えられた神からの祝福です。しかも、その満足というのは、常に、すべてのことにおいてです。例外はないのです。どんなときでも満足をもって、本当に満ち足りた心で一日一日を過ごしていけるのです。

今のあなたの現状をはかなり違うかもしれません。しかし、これが神の約束であり、この約束をイエス・キリストの恵みによって救われた信仰者ひとり一人に神は与えておられるということを覚えてください。問題は、では、どうすればそれを自分のものとして生きることができるのか？でしょう。みことばはこのような満足をもってあなたは生きることができると教え、その約束を与えています。どこに問題があるのか？罪です。もし、あなたが神の前を正しく歩んでいるなら、この約束はあなたのうちに成就しているはずで。ですから、まず、塩を使ってイエスが弟子たちに教えたかったことは、「周りの人たちを見てごらん下さい。どれだけの人が虚しい生き甲斐のない生活を送っていることか、あなたがたの責任はその人たちに味を付けることだ」です。

2) 防腐

塩は防腐剤です。日本でも山岳地帯に魚を運ぶときに塩漬けにしています。どこの国でもそのような知恵が与えられています。イスラエルでもそうでした。肉に塩を塗ると腐っていくのを遅らせることができました。イエスは「あなたは塩だ」、あなたは腐るのを遅らせる働きをされると言われたのです。今の世の中を見て、だれも良い方向に向かっていえる人はいません。その逆です。世の中はどんどん悪くなっていきます。いろいろな国が自由を得たけれど、その結果どうなったでしょう？まだ国は混乱状態にあります。「アラブの春」の後、あの地域はどうなったでしょう？それだけではありません。犯罪はエスカレートするし、私たちはそれを聞いても驚かなくなっています。悲しいことです。悪はどんどん増大していきます。聖書が教えるような社会になっています。

イエスは言われます。「あなたは防腐剤である。あなたは地の塩である」と。ということは、私たちの務めは、この悪が増大していくのを遅らせるということです。どういうことか？皆さんがされていることです。皆さんは主イエス・キリストに逆らっている人のために祈っているでしょう？彼らに福音を伝えておられるでしょう？そして、彼らの前で正しく生きて、彼らの前に模範を示しているでしょう？そうして、彼らに「あなたも同じように罪を悔い改めてこの救いに与りなさい」というメッセージを発し続けているのです。そうして、社会が悪に染まっていくその速度を遅らせているのです。その務めだと言います。だから、私たちは益々周りにいる未信の方々のために祈り続けることが必要であり、この福音を語り続けていくことが必要なのです。ペテロはこのように言っています。Ⅰペテロ4：4「彼らは、あなたがたが自分たちといっしょに度を過ぎた放蕩に走らないので不思議に思い、また悪口を言います。」、このような務めがあるとイエスは話しておられます。

3) 乾き

三つ目は「乾きを与えるもの」です。私たちの生き方によって人々に乾きをもたらすのです。塩辛いものを食べると私たちは間違いなく喉が乾きます。味が濃いと食事の後水ばかり飲みます。つまり、あなたの周りの人たちはあなたの生き様を見て、乾きを覚えるかどうかです。周りの人があなたを見て、「この人のように生きていきたい。何か分からないけれど、この人が持っているものを私はもっていないから…」と、そのような乾きをもたらす存在、それが私たちクリスチャンだと言うのです。それがあ

なただと言うのです。ペテロは希望についてこんなことを言いました。Ⅰペテロ3：15「むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。」と。このみことばが私たちに教えることは、あなたがたを見ている人たちがあなたがたに説明を求めるということです。周りの人たちが信仰者であるあなたを見て質問をするのです。「なぜ、あなたはこうなのですか?」「なぜ、この人はこのように生きるのですか?」と。特に、この箇所では「なぜ、この人はこんな希望をもって生きているのでしょうか?」と、そのように質問をするということです。そのときにきちんと答えて上げなさいとペテロは言います。そうすると、聖書が教える希望は世の中が教える希望とは違います。

*** 聖書的「希望」**

・ 迫害において忍耐を与える

どんな迫害を経験していても、信仰ゆえにいろいろな困難を経験したとしても、その中にあってあなたに「忍耐」をもたらすものです。イエスを信じ、イエスに従っているあなたに様々な迫害が来るとして、その中にあってあなたはイエスにお会いするそのときを覚えてその日を待ち望むのです。イエスの前に立ったときに、イエスがあなたにふさわしい報いを与えてくださるからです。信仰者の皆さんはそのことを信じているでしょう?あなたが主のために為すどんなに小さな働きも決して主の前には無駄ではないということを…。主はそれをちゃんと覚えておられてそれにふさわしい報いを与えてくださると。だから、どのような迫害があっても、その中で主の前に立つ日を覚えてしっかりと主に従い続けていこうとします。ですから、この永遠の希望、主にお会いするという希望は、今経験している困難の中で、妥協しないで主に従い続けていこうという忍耐をもたらします。

・ ひとり一人のたましいに確信と励ましと保証を与える

つまり、神のおことばを見て、神はこんな約束をしてくださったと私たちはそれを信じるのです。私たちの信仰は神の約束を信じる信仰です。私たちは私たちの罪が赦されたとどうして信じているのか?そのように神のおことばが約束してくださったからです。「死んでも生きる」となぜ信じているのか?そのように神が約束されたからです。罪の赦しをいただいた者は永遠に赦されている、なぜそう信じるのか?そのように聖書が約束しているからです。だから、私たちの信仰は神が言われたことに確信を置いているのです。

ですから、私たちがどんなに迫害を経験しようと、その中にあって「いや、主はこうおっしゃった!主は必ず必要を与えと言われた。主は必ず私を守ると言われた。主は私から離れないでいつも私とともにいてくださると約束してくださった。」と、そのことが私たちの心の中に強い確信をもたらすのです。嵐の中でも揺るがないで耐えられるのです。そのように皆さんは生きておられます。不安になるときでも神のおことばを見て「このような約束をくださった神だから!」と、そこに希望を見出しているのです。聖書が教える希望とはそういうものです。私たちが主に従い続けていくための力です。ヘブル書6：18-19をご覧ください。「:18 それは、変えることのできない二つの事がらによって、——神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません——前に置かれている望みを捕らえるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。:19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側に入るのです。」

今話した通り、希望は神の約束に立つものです。神は私たちにすばらしい約束を与えてくださっています。

☆「希望」 : 神からいただいた約束

(1) キリストの再臨

イエスは必ず帰って来られるのです。私たちを迎えに来てくださるのです。その時を待ち望む者として私たちは今日を生きることができるのです。Ⅰテサロニケ4：16-17「:16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。」、テトス2：13「祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現れを待ち望むようにと教えさとしたからです。」

(2) よみがえり

私たちはよみがえりという約束をいただきました。私たちは死んでも生きるのです。確かに、肉体は衰えていきます。死という問題が現実のものとして近づいてきます。でも、私たち信仰者は死んでもそれは終わりではないし、それはさばきを意味することでもない、それはすばらしい祝福を意味することです。私たちは主とともに永遠を過ごすことができるのです。主イエス・キリストがよみがえられたように、その主を信じる私たちも同じようによみがえりと、その約束をいただきました。その希望をもつ

て私たちは生きることができるのです。Ⅰテサロニケ4：16－17、使徒の働き23：6「しかし、パウロは、彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見て取って、議会の中でこう叫んだ。「兄弟たち。私はパリサイ人であり、パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。」

（３）信者の携挙

私たちは主の許に引き上げられるという、その希望をもって生きています。死を経験してからかどうかは分かりませんが、確実に私たちは最終的に主の許に上がります。でも、死を経験することなく、主の許に引き上げられたいと願っています。なぜなら、その約束を主は私たちに与えてくださったからです。主ご自身が私たちを迎えに来てくださるのです。主の携挙が約束されています。Ⅰテサロニケ4：16－17、5：8「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。」

（４）栄化

携挙のとき、私たちは栄光のからだをいただくという約束をいただいています。皆さん、もし、この罪のからだを負って永遠を過ごさなければいけないとなっていたら悲惨です。罪との葛藤がずっと続くのなら、主を悲しませる事態がずっと続くのなら、悲しくて仕方ありません。すばらしい約束は、この罪のからだから解放されて栄光のからだをいただきます。そのような希望を神は私たちにくださったのです。Ⅰテサロニケ5：8、ガラテヤ5：5「私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。」

（５）約束の成就

主は私たちに「約束の成就」を約束してくださっています。主が言われたことは必ずその通りになります。主の約束は必ず成されます。その約束を私たちに与えてくださったのです。その希望をもって私たちは生きることができます。マタイ5：18「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。」、使徒の働き26：6、7「：6 そして今、神が私たちの父祖たちに約束されたものを待ち望んでいることで、私は裁判を受けているのです。：7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでおります。王よ。私は、この希望のためにユダヤ人からいえんの訴えられているのです。」

（６）永遠のいのち

テトス1：2「それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束してくださった永遠のいのちの望みに基づくことです。」、3：7「それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人となるためです。」

感謝なことだと思いませんか？私たちは死んでよみがえって、愛する主と永遠を過ごせると…。この主を仰ぎ見ながら、誉め称えながら、私たちは永遠を過ごすことができるのです。このような約束が与えられ、このような約束の上に私たちは立っているのです。この約束はだれか別の人に与えられたのではなく、あなたに与えられた約束です。この約束を信じ、この約束に立ってあなたは生きることができるのです。どうぞ、そのように生き続けてください。そして、そのような希望をいただいたことをあなたは人々に伝えるという責任を負っているのです。

☆なぜ、神はこの希望をあなたに与えてくださったのか？

それは「証」のためです。人々にそれを伝えるためです。希望を持っていない人が私たちの周りに溢れているからです。主イエス・キリストにある永遠の希望があるのです。「塩」を考えたとき、主から大切な働きをいただいています。「あなたがたは、地の塩です。」と言われ、今、塩の働きを見て来ました。味を付け、腐敗を遅らせたり、乾きをもたらず、でも、この働きは塩のための働きではありません。塩が為す働きです。私たちも自分のために何かをするのではなく、他の人のために何かをするのです。私たちの周りにいる人々の幸せのために何ができるのかを考えるのです。あなたの愛する家族のために、愛する友人のために何ができるか？彼らの本当の幸せを考えるなら、彼らにこの希望のメッセージを伝えなければいけないのです。この救いこそが彼らに希望をもたらすからです。この主イエス・キリストの救いなくして、本当の幸せを得ることなどできません。だから、私たちは彼らの幸せを望む者として、彼らにこの知らなければならないメッセージを語り続けていくのです。私たちは彼らが常に喜びをもって生きてもらいたいと願っています。それなら、喜びを与えることのできる神を伝えなければ、喜びをもって生きることなど不可能です。この世にあって平安をもって生きてほしいと願います。それなら、平安の神である方を伝えなければなりません。彼らが罪の赦しをいただいてほしいと願うなら、私たちは救い主を伝えなければいけないのです。

私たちは神から大切な務めをいただいていると、イエスはそのことを言われました。13節のみことばをもう少し見てください。「もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役に

も立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」、ここを読むと、塩に塩気がないなら価値がないものとして外に捨てられると見えますが、実はこの当時、塩気を失った塩は本来の目的ではないことに使われていたのです。説明します。今でもそうですが、死海の付近では塩が取れます。そこで塩を採取したときに、あるものは今見て来たように本来の塩の働きを為して、塩漬けや調理に役立つものとして使われましたが、ある塩は塩味を失くしていたので、それらは捨てるのではなく、エルサレムの宮の中に保存されました。冬の雨の季節が来ると、その雨が大理石の中庭を濡らしてしまつて非常に滑り易くなります。そのときに、その塩味のない塩をそこにばら撒きます。そうすると滑り止めになったのです。そのように使われたのです。そうして人々の足に踏まれたのです。だから、イエスはこのことをここで言われたのです。現実にはそのことが為されていたのです。塩本来の働きをするために塩はあるのです。そのためには塩は塩でなければならなかったのです。塩に様々な不純物が混じっているとだめなのです。

私たちも何回か死海に行きました。あるときのこと、死海の水は塩水ではありません。マグネシウムやカリウムなどの様々な鉱物が混じっています。大量の塩化物も混じっています。ある人がキュウリを持って来て「塩漬けにする」と言います。面白い実験だと思ひおいしいのができるのかと聞くと、とても食べられたものではないと言います。純粋な塩だけではないからです。

つまり、こういうことです。イエスは「あなたは地の塩だ」と言われました。大切な役割があるので。あなたの周りの人たちに、この神のすばらしさを伝えていくのです。希望のない人に希望を伝えていくのです。でも、そのためにはあなたのうちに不純物があってはいけません。つまり、あなたのうちから罪を除いていかなければいけないのです。そうしなければ、あなたは塩として役に立たないと言われます。先に見て来たように、私たちは世の中の人たちに対して模範を示すわけです。私たちの生き様が彼らの模範となるのです。あの人のようになっていきたい、この人のように生きていきたいと。塩として生きていくために私たちのうちから不純物を除いていきなさい、そのときに神は私たちを使つてくださるから、しっかりと塩として働き続けていきなさいと、そのことをこの13節でイエスは言われました。

B. あなたは光である 14－16節

ここには「光」のことが記されています。「あなたは光である、あなたは世界の光である」と。

1. 光の役割 14－16節

光の役割について説明する必要はないでしょう。その場を照らして明るくし、だれにでもはっきりと見えるようにします。光をつければ、電気をつければ物がよく見えるようになります。「世界の光だ」といわれた。世界に光を当てて、人々が物事を、真理を見るようにするという役割をあなたは主から頂いていると言うのです。14節に「**山の上にある町は隠れる事ができません。**」とあります。山の上にあればどこから見てもよく見えます。それがあなたの役割だと言っているのです。あなたの周りにいるすべての人々があなたを見て、先ほどと同じです。「この人の持っているものを私は知りたい。この人のようになりたい。」と言うのです。「**あなたがたは、世界の光です。**」と言われた。イエスを信じこの救いに与った人たちは光の子どもになったのです。光の子どもらしく歩みなさいとパウロはエペソ5：8で教えます。「**あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。**」。ピリピ2：15では「それは、あなたがたが、**非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあつて傷のない神の子どもとなり、**」と教えます。ヨハネ8：12でイエスは「**…わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。**」と言われました。あなたはいのちの光を持っている者として、その光をこの世にあつて輝かせていきなさいと、そのことが教えられています。ちょうど、山の上にある町のように、人々の目の前にはっきりとその存在を示す町のように、あなた自身も人々の前であなたのうちにいる神を、そのすばらしさを明らかにしていなさいと言うのです。

2. 光の意義 15－16節

1) 家全体を照らすため 15節

15節にあかりをつけてそれをどこに置くのかということが記されています。15節「**また、あかりをつけて、それを柵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。**」、あかりを隠したりしないで燭台の上に置く、それは家のすべての人を照らすためだと言うのです。ということは、私たち信仰者がもしその信仰を隠しているなら、光であるあなたはその働きをしていないということです。光はその光を輝かせるという務めを持っているのです。このすばらしい救いに与った私たちがその救いを隠しているなら、どのようにして人々を説得しますか？隠さなければいけないような救いであるなら、人々はそれを求めるでしょうか？私たちが主から頂いた救いというのは、唯一の救い

であり、すべての人が信じ受け入れるべき救いです。これに優る救いはありません。それなら、私たちは隠すのではなく、それを公にすることだと言うのです。それがメッセージです。

2) その目的 16節

16節の初めに「このように、」と書かれていますが、実は、この箇所には目的を表わす接続語が使われているのです。この話をした後、16節で主イエスはこのような目的のためにあかりをちゃんと燭台の上に置きなさいと言われました。「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、…」、燭台の上にはっきり置きなさい、次の二つの目的のためにと、その目的が16節に書かれています。

(1) あなたがたの光を人々の前で輝かせ

「人々があなたがたの良い行いを見て」と続いています。クリスチャンの皆さん、あなたは良い行ないを人々の前で実践し続けなさいと言うのです。良い行ないとは、神を喜ばせる行ないです。恐らく、気付かれたと思いますが、そのことを私たちは何度も学んで来ましたが、私たちが喜びを持って歩み続けていくために必要なことは何ですか？ 神を喜ばせ続けることです。私たちが神を喜ばせ続けているなら、私たちも喜び続けるのです。同じことです。主が言われていることは、私たちが人々の前で主がお喜びになることを継続していくなら、あなたは光として大いに用いられ続けていくということです。私たちがいつも考えなければいけないことは、どのようにして主を喜ばせるかということです。主が喜ばれることを選択していくことです。良い行ないを為し続けていきなさいと。

(2) 神の御名が崇められるため

16節に続いて「…天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」とあります。つまり、あなたがたの歩みを見て、周りの人たちがこの神を見、この神を崇め、この神を信じるようにということです。どんなにすばらしい神がおられるのか、どんなにすばらしい救いが備えられているのか、それを証できるのはあなたや私だけです。この救いに与った者だけです。あなたがしっかりと主に喜ばれることを為していくなら、神はあなたを使ってくださいと、そして、人々があなたを見る時に「この人が持っているものを私も頂きたい。」と願い、そして後に、その神を崇める者と変えられていくのです。I ペテロ2:12をご覧ください。「異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」。少なくとも、このことを見るだけでも私たちは神から大きな責任を頂いていることを再認識していただきたいと思います。

結論:

「あなたがたは地の塩である」とイエスは言われました。私たちは大切な務めを頂きながら今日を生きているのです。「あなたがたは世界の光だ」とイエスは言われた。大切な務めがあるのです。私たちはこの世にあってこの救いのすばらしさを明らかにしていくのです。どのようにしてですか？ 私たちの生き方をもってです。

ロイド・ジョーンズ博士は、教会が社会を変えようと一生懸命努力しても、もし、それが聖書的方法でなければ変わって来ないと言います。教会の一つの大きな問題は、聖書的以外の方法で変えようとしたところにあるとして、このように記しています。紹介します。

「今、私たちは50年前よりもはるかに不道德な社会に住んでいるということである。これらの社会改良は、聖書的方法によるのでなければ出来ないというのは、明白ではないだろうか。人は、原則の適用によって、直接的にこれをしようと努力する。しかし、それらは出来ないということに気付く。その問題点は、キリスト者があまりにも少なすぎることで、またキリスト者である私たちが十分に塩になっていないことである。私は攻撃的な意味でこう言っているのではない。ただ真の意味でのキリスト者のことを言っているのである。それと同時に認めなければならないのは、私たちが部屋に入って行った時、私たちが来たというので、そこにいた人々がすぐ言葉使いや会話を抑制されるということが、あまり私たちについて言えないことである。その点が私たちの嘆かわしい失敗である。真の聖徒は、その影響を放射するものである。それは、彼がたまたま居合わせるどんな集まりにも、浸透するものである。問題は、塩がその塩らしさを失ってしまっている点にある。私たちは、当然あるべき姿で「聖徒」であることによって仲間を制御することをしていない。教会は、戦争や政治などのおもな論点について重大な宣言を発表するが、世間一般の人は影響を受けない。けれども、仕事場で働いているひとりが真にキリスト者であり、そのいのちが聖霊によって救われ、造り変えられているならば、その周囲のすべての人に影響を及ぼさずにはいないのである。」(山上の説教上、P. 240-241)

もし、私たちが本当に生まれ変わったとするなら、そして、私たちが神の前を正しく歩んでいるなら、間違いなく、私たちは彼らの前に、地の塩として世の光として、その影響を及ぼしていると言うのです。そう思いませんか？ 皆さん。問題は、私たちだと言います。問題は私たちがどのように生きているかな

のです。私たちの生き様が本当に彼らに私たちの主を、この救いを明確に示しているかどうかです。その責任を私たち信仰者は考えないといけないと言うのです。

この間のオリンピックで、日本のフィギュアスケートで浅田真央という選手のすばらしい演技を私たちは見ました。あるリポーターが彼女のお母さんのインタビューの記事を載せていました。お母さんの匡子さんが言ったことは「フィギュアスケートは勝った負けたではないと思うのです。生き様をどう氷の上で見せるか、それがフィギュアではないですか？」と。自分の生き様をどう氷の上で表現するのか？と。私たちは氷の上に乗っていません。この地上にいるのです。私たちは生き様をもって私たちの主を、この救いを証するのです。それがクリスチャンです。そして、そのことを主が望んでおられると言います。だから、主は言われたのです。「あなたは地の塩だ。あなたは世界の光だ。」と。

この世にあって、神の偉大さ、その救いのすばらしさを生き様をもって示すという務めを私たちは頂きました。どうぞ、信仰者の皆さん、あなたは地の塩なのです。世界の光なのです。そのように生きてください。それが主があなたに望んでいらっしゃることです。

《考えましょう》

1. 「塩」にはどんな役割がありましたか？
2. 「塩」であるあなたのこの世に対する責任を記してください。
3. 主が「あなたがた（13、14、16節）」を強調したのはどうしてですか？
4. 「光」であるあなたの責任を記してください。